

ニッコウシダ *Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。温帯性の植物で、分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 であるが、森林化の進行による湿地の消失とシカの食害が懸念されるため、絶滅危惧 I A類と評価する。なお、この評価は狭義のニッコウシダを対象としたものであり、メニッコウシダ(ケヒメシダ) var. *borealis* (H.Hara) H.Hara はリスト外である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎はやや短くは、先端に葉を叢生する。葉柄は長さ 15cm を超え、わら色でまばらに微毛があり、基部は暗褐色で鱗片がある。葉身は披針形～細い楕円形、2 回羽状深裂、長さ 50～70cm、幅 10～15cm、下部の羽片は次第に著しく短くなる。胞子のう群は裂片の辺縁と中肋の中間につき、包膜は円腎形で単細胞の尖った毛と腺毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根(芹沢 88755, 2013-9-7)。現在のところ 1 カ所で確認されているにすぎない。

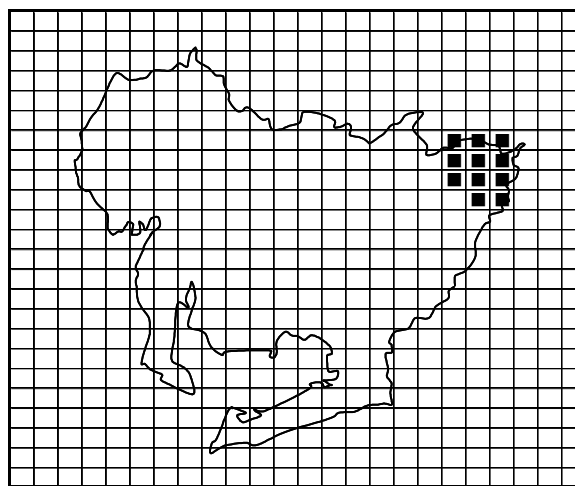
【国内の分布】

北海道および本州(中部地方以北)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい、あるいは半日陰の湿地に群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

造林地内に残存した小湿地に、小群落があるだけである。周辺ではシカによる林床植物の食害が著しく、本種についても食害を受けるのは時間の問題と思われる。

【保全上の留意点】

周辺の樹木を伐採して光条件を確保すると共に、シカ防護柵の設置を検討するべきである。また、東三河のなだらかな山陵部に点在する小湿地は、拡大造林や牧場造成などにより、詳細な調査が行われないままほとんど消滅している。現在残存している湿地は、特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

メニッコウシダは下部羽片があまり短くならず、包膜にほとんど毛がないもので、三河山地に点在しており、猿投山の瀬戸市側にもある。

【関連文献】

保シダ p.110, 平シダ p.216, 学シダ I p.435.
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 634-637. 東京大学出版会, 東京.